

戦後間もない 1947 年(昭和 22 年)の開校時、本校の初代校長は「昭和の松下村塾」を理想に掲げ、「自主自律」を教育のスローガンとして学校づくりに臨みました。以来、歴代の生徒と教職員は校訓を心に刻み、様々な挑戦を試みることで共に課題を乗り越え、自己を確立してきました。そのようにして受け継がれてきた「自主自律」の精神は、やがて金大附属高生が将来、世界の屋台骨を背負うまでに進化すると確信しています。

「自主」とは、他者からの干渉を受けず、自分の意志で行動することです。また「自律」とは、自分を抑え、自分を律することです。「自主」と「自律」をうまく調和させ、自己を高めるのは大変難しいことです。そこで、以下の三つの言葉を贈ります。それらは、「自主自律」という目標に必ず到達できる道標になると思います。

一つ目は「チャレンジ精神」です。七転び八起きの精神です。失敗を恐れず、次に繋がる道を切り開くことが重要だと考えます。

二つ目は「洞察力」です。先生や先輩たちの姿勢や行動を見ているだけで、言葉はなくてもその情熱やメッセージが伝わってくると思います。やがて、次には背中を見られる存在になっているはずです。

最後の三つ目は「自身へのリスペクト」です。自分との約束を守り、誠実に向き合うことで、必ず課題を克服できると考えます。

小さな学び舎「令和の松下村塾」で学んだ金大附属高生は、やがて故郷・石川を巣立ち、日本、そして世界の各地で、自らが選択した道を究め、選んだ分野で必ず貢献いたします。教職員一同、そのような人材を育てるために団結し、尽力いたします。

令和 7 年 4 月 1 日 大村雅章